

## 令和8年度「いわて新農業人チャレンジファーム」第3回研修を開催しました

岩手県農業公社就農支援部では、令和8年5月8日（金）・9日（土）の2日間、雫石町南畑において、第3回研修を開催しました。前半の講義では、「土づくり、肥料、用土」と「トマトの栽培方法」をテーマに学びました。土づくりについては、土壌の物理性、化学性、生物性を改善するための堆肥投入の重要性や、作物の生育に影響するpH（酸度）の調整、さらには植物の必須要素と肥料の種類について、栽培の根幹となる概要を学習しました。

後半の実習は、パイプハウス内での「トマトの定植」を実施しました。パイプハウス設備の概要や、本研修のトマト栽培方法として採用している養液隔離床栽培についての説明の後、2班に分かれて灌水チューブの設置と白黒マルチフィルムを敷設及び穴開けを実施しました。

続いてのトマト苗の定植作業では、指導員も

受講生の輪に加わり、一緒に汗を流しながら実技指導を行いました。指導員からは「一番花はまだ開花前だが、今後の作業性を考慮し、つぼみの向きを通路側にして植えること」と、管理作業や収穫を見据えた定植時のポイントを受講生へ伝えました。実習中は、定植方法の確認はもちろん、指導員と受講生が同じ目線で作業を行うことで、真剣な中にも笑顔がこぼれる温かな時間となりました。

また、受講生同士でのコミュニケーションも段々と活発になり、協力しながら2日間で168本のトマト苗を定植しました。

次回の第4回研修は、5月15日（金）・16日（土）に、雫石町南畑において、「マルチフィルム」などの講義に加え、実習では「ピーマン、なすの定植」などを実施する予定です。



講義「土づくり、肥料、用土」についての様子



隔離床の列へ白黒マルチフィルムを敷設する受講生



トマトの苗を培土へ定植する受講生



真剣な表情でトマト苗を仮支柱へ保定する受講生